

究のプログレスミーティング等にも参加し、貴重な体験を得ることができました。

医学部大学病院はメルボルン大学本部より15キロ北東にあり、ほとんどの研究室はAustin病院に配置されていますが、肝臓病研究グループは同病院から数キロ離れたAustin Repatriation病院(第二次大戦時に建設)にあり、ベテラン精神科ユニットの一部に設置されています。院内では緊急事態を職員に知らせるための暗号があり、それらは色でアナウンスされます。その中でも頻繁に発せ

られたのは「コードグレー」で、「患者や訪問者が暴れている」ことを意味し、最初は不安で落ち着けませんでした。また、滞在時期にメルボルンは新型インフルエンザが流行しており、閉鎖される学校もありましたが、マスクを着用している人を見かけることはなく、全く気にしていないようでした。

おわりに、今回の派遣期間はあっという間でしたが、このような貴重な機会を与えてくれた関係諸氏に深く感謝します。



左から Dr.Herath、Prof.Angus、Dr.Clonan（博士課程研究生）、筆者



メルボルン大学医学部 Austin 病院

TOPICS

サマーサイエンスキャンプ2009の開催

平成21年7月29日(水)から31日(金)までの3日間、サマーサイエンスキャンプ2009を動物衛生研究所(つくば)で開催しました。同キャンプは、(独)科学技術振興機構主催・受入機関共催・文部科学省後援で行われる「高校生のための☆先進的科学技术体験合宿プログラム!!」です。当所は、1997年から参加しており12回目の夏でした。今年も例年同様、8名の高校生(男子2名、女子6名)を迎え、キャンプの修了生数は通算で96名となりました。プログラムは次のとおりです。

29日：開講式、業務説明、講義実習「マウスの体の観察と遺伝子解析技術の基礎」、交流会

30日：講義実習「家畜の臨床検査、生化学検査」、昼休み特別セミナー

31日：講義実習「初日実習の結果解析および解説」、発表、閉講式

これらの実習は、2名の責任者(國保上席研究員/次世代製剤開発チーム、菊主任研究員/生産病研究チーム)の下、総勢23名の研究者が講師を担当しました。開講式では、所長から挨拶を頂き、参加者は緊張の面持ちでしたが、なぜ当所での体験を希望したか、参加にあたっての決意を述べました。例年、キャンプには積極的な生徒が参加しますが、今年は「動衛研で働きたい」「家保で働

たい」との発言もあり、「その前にしっかり勉強しよう」とのアドバイスが出る一幕もありました。このようにして夏の暑い3日間は無事終了しました。

(情報広報課)

